

第6回

京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会

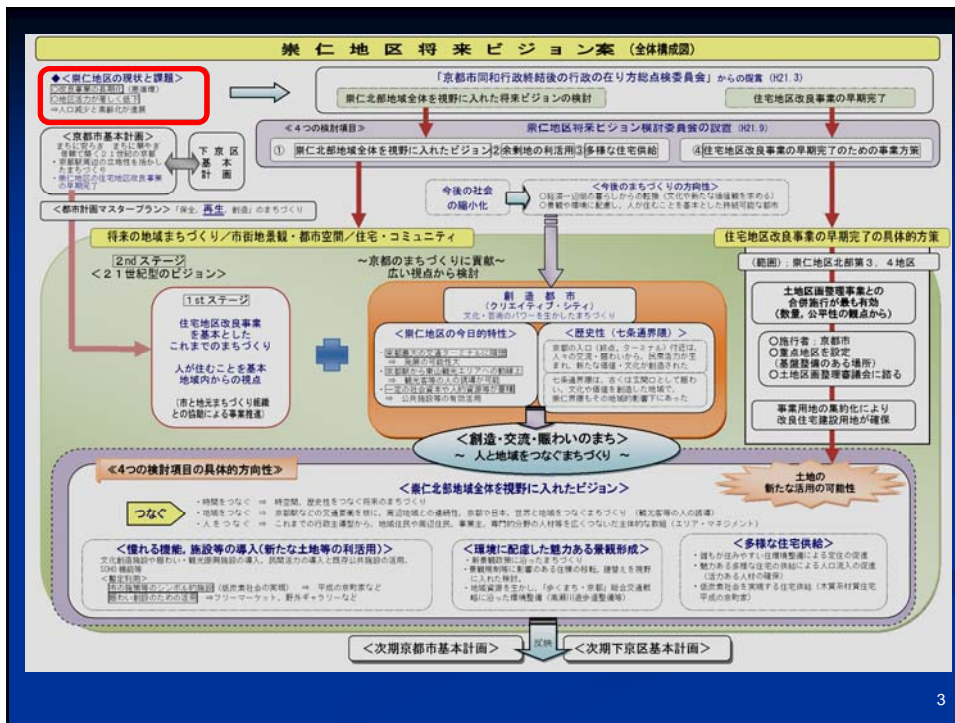
平成22年3月25日

1

資料2

崇仁地区将来ビジョン案 (全体構成図)

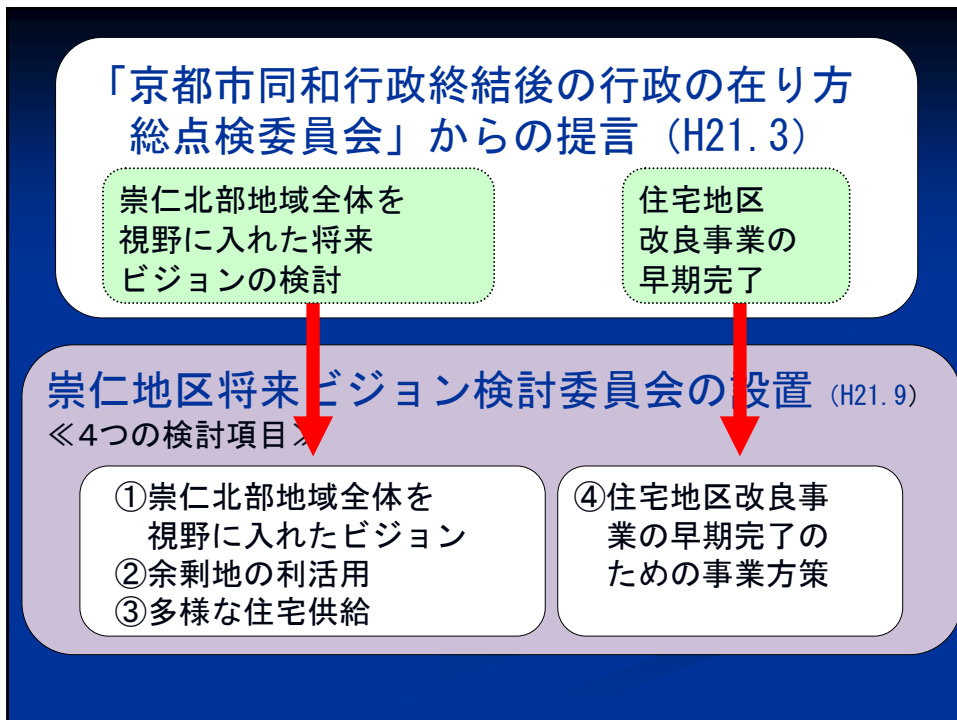
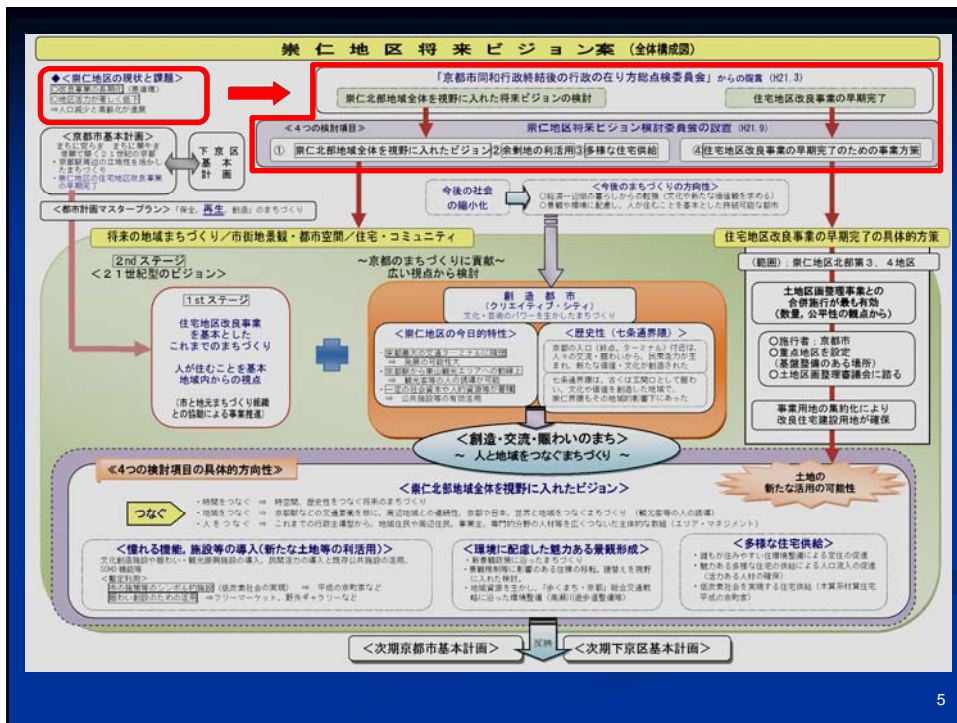
2

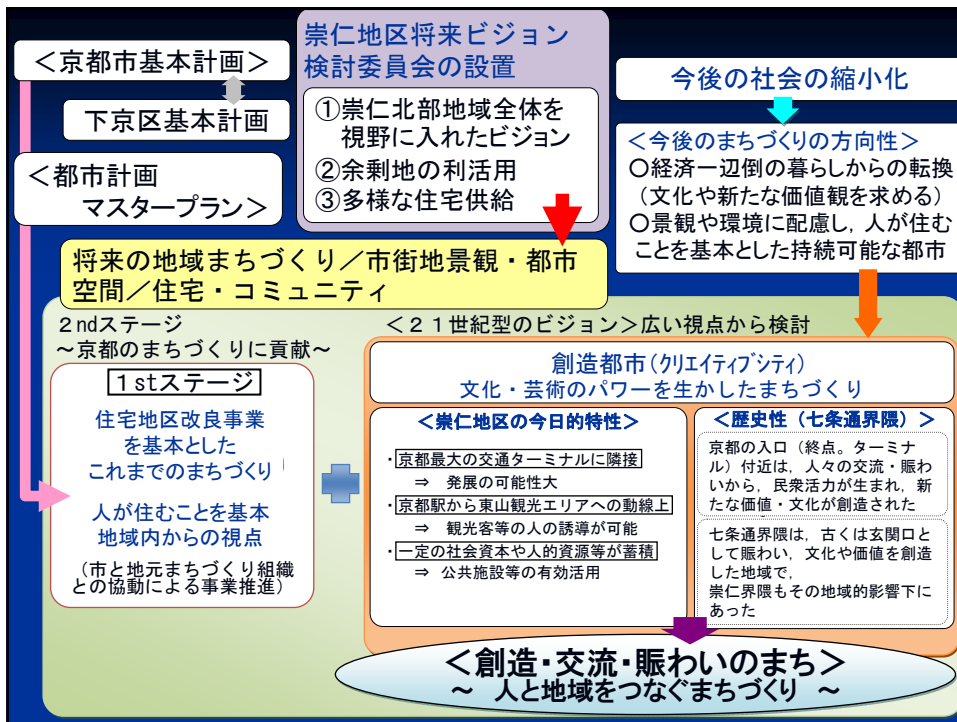
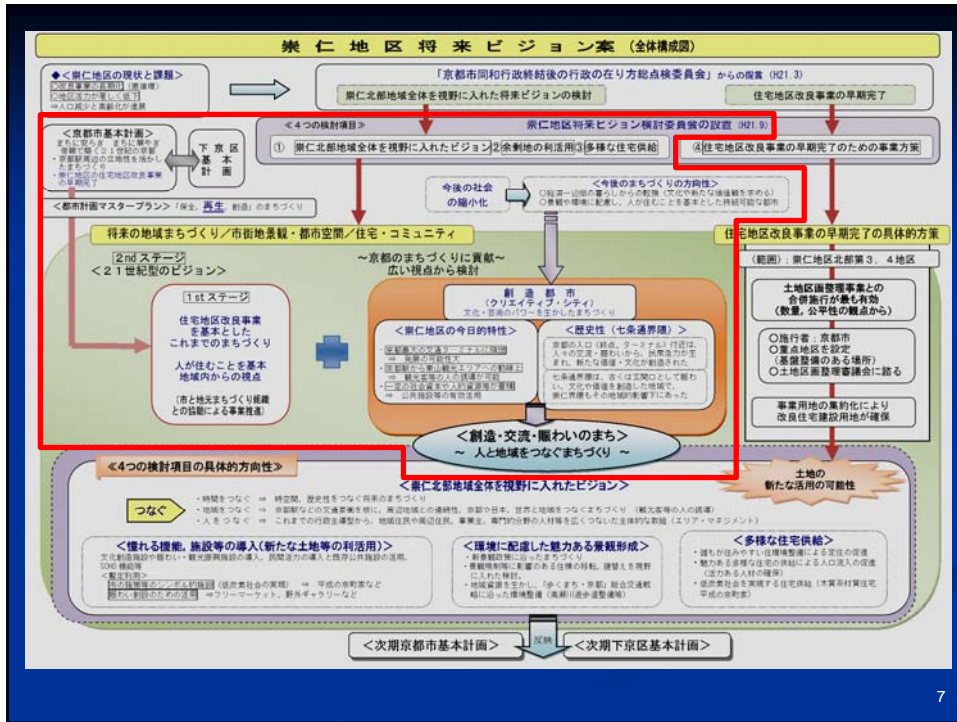


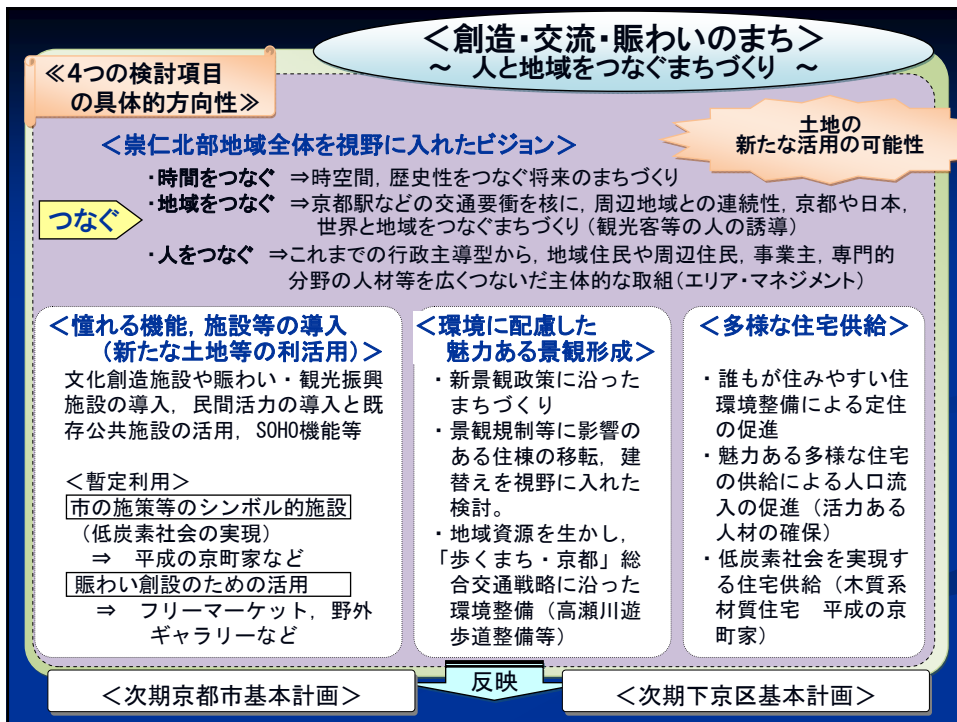
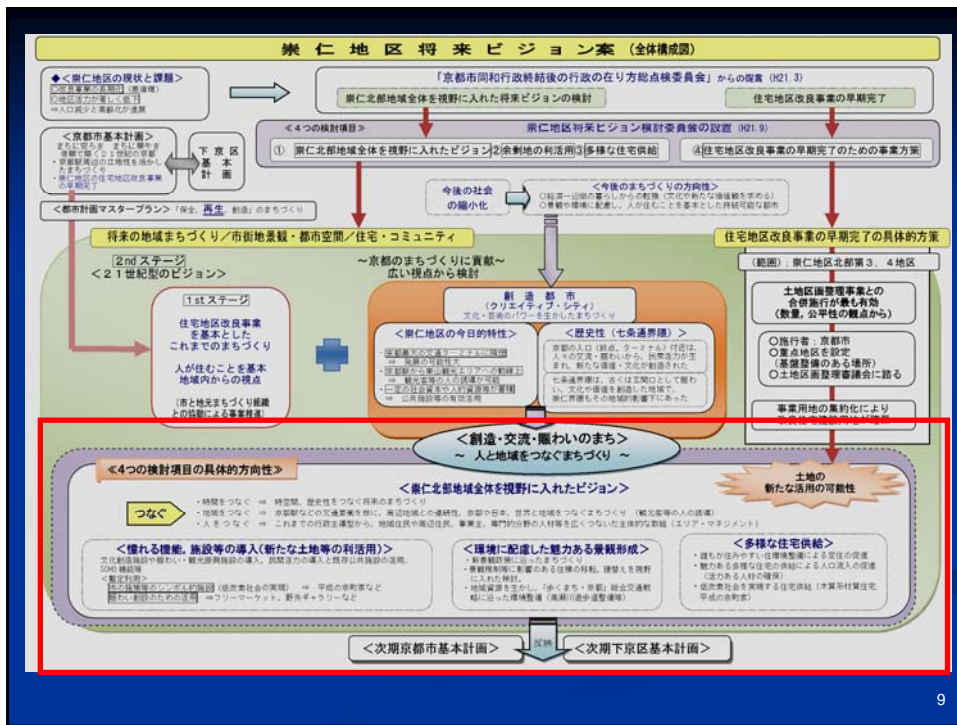
◆ <崇仁地区の現状と課題>

○改良事業の長期化 (悪循環)

○地区活力が著しく低下
⇒人口減少と高齢化が進展







おわりに

- ・「創造・交流・賑わいのまち」という新たな方向性を導き出し、誰にも理解される21世紀型のオープンなビジョンとしてとりまとめた。
- ・ビジョンの将来的な実施に当たっては、長期化した改良事業を早期に完了させることが不可欠であり、その実現手法として区画整理事業との合併施行が有効である。
- ・合併施行の導入によって、改良事業は10年程度の期間に完了を目指す。
- ・将来ビジョンは、具体的プランの策定のもと、20年から30年程度の期間に完了を目指す。
- ・京都の玄関口に隣接する崇仁地区は、京都のまちづくりにとって非常に重要であり、京都市と、地元住民の方々等との新たな運営体制を基盤として、幅広い市民合意のもとでビジョンを実現することが重要である。
- ・地元の方々等による、まちづくりの推進体制の構築を通して、まちのエリアマネジメント機能が確立し、将来ビジョンの実現に向けて力強くリードされることを期待する。